北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	異文化ゼミナール	科目コード	1152	単位数	2
担当者名	原子　智樹	開講セメスター	第2セメスター	開講年次	1年次
授業の方法	講義	到達目標	B	実務経験	無
ナンバリング	BSe202	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

異文化ゼミナールは必修や必履修の科目ではありません。

本ゼミナールでは，テキストとする新書とR1からR8，およびウェブ上の資料その他とを随所でからめ，言語・民族に関わる内容に取っかかりを見出し，世界の言語分布が地球上の国境線といかに重なりあるいは「ずれ」があるのかをみていくことは前提となりますが，さらにそこから，われわれの社会全体が動いている仕組みまで考えていきたいと思います．例えば，我々の周りの隅々にまで行きわたるコンピュータ・システム．このコンピュータ社会・現代情報化社会でいかに生きていくことになるのでしょうか．その根本にあるのは果たして何なのでしょうか．また別の面からでは，政治･金融･社会制度などのつながり方をどのように認識していけばよいのでしょうか．これらも当ゼミナールの重要なテーマです．可能であれば，様々な情報素材により，人類社会がどのようなつながりで全体を成しているのかまでも概観し，その過程で自らの未来の課題を発見する想像力を培うことを目指したいと思います．

到達目標

社会文化ゼミナールで培った基礎的技能をベースにして，自分の未来を考えてみる準備とします．さらにそこから，世界・社会・経済やお金の今の姿，そして我々のまわりで起こる様々な出来事までを考え，その過程を通して，各受講者が卒業後の自らの姿を想定した考え方を固めていく素地としてください．１年次の間に，自分の考えやこころをとらえ直し，また社会で実際に役立ち各自に向いた技能への目標を見つけ出し，２年・３年次への目的を持つことができます．

授業内容

1週目 全般解説a (辞典類について／図書館の利用および開架図書について)
2週目 全般解説b (学内インターネット接続パソコン／英語の復習と今後の学習方法について／英語という言語について)
3週目 世界のしくみを考えてみる　　／　以後，自分の未来図作成を随時開始準備の予定
4週目 世界のしくみの中での新聞などマス・メディアとさまざまな情報源
5週目 言語・民族の分布と国境線との重なり，あるいはずれ
6週目 世界のしくみの中での言語・民族の分布と国境線との関係
7週目 世界のしくみの中での言語・民族の分布と国境線との重なり，あるいはずれの理由を考える
8週目 身のまわりのコンピュータ・システム(インターネットなど)
9週目 コンピュータ・システム社会
10週目 世界のしくみの中でのコンピュータ・システム社会
11週目 世界・社会・お金そして我々を取り巻く様々な出来事
12週目 世界・社会・お金そして我々を取り巻く様々な動き
13週目 世界・社会・お金そして地球について
14週目 世界と地球とのしくみ
15週目 ここまでの，自分の未来図を完成させる
16週目 16 週目の開講は任意とします　／　再試を行うことがあります　／　これまでの内容についてのフィードバックを実施することがあります。但し止むやむを得ず15週目までの授業内容を実施出来なかった場合は、この週に補講授業を行います。

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

ゼミナール内容の要点把握および疑問点の列挙や，各自が選び読み切る書籍の咀嚼に、週により違うでしょうが、授業時間数（30分～100分）相当を要するでしょう．これを適宜に整理し次週に反映させるようにしましょう．
必要に応じ、授業時間以外でも情報調査・収集を学内アクセスポイント等を活用して、積極的にアクティブ・ラーニングに取り組みましょう．
毎週、対面授業の内容をＬＭＳで簡潔に報告してもらいます。

成績評価の方法・基準

週によっては諸々の課題，書籍内容まとめ，授業内容にある自分の未来図などの作成、対面授業の内容報告ほか 100%
（ゼミ開始後指定して，新書版書籍一冊の読んだ内容その他に対してまとめを作成し、LMS上でレポート提出してもらう予定です．この課題提出が無い場合、原則単位不認定となります。）

履修上の留意点

新書版 1冊 \1,000程度 を購入ししてもらうことになります．（ゼミナール開始後指示します）
講義担当者の判断により，内容・予定を微調整することがあります．
諸課題の途中経過や結果は必要に応じ教務システムやLMS上で反映します．
LMSと大学アカウントGmailとを主に使用する予定です．連絡事項はLMSの〈掲示板〉機能を多用します．また研究室扉横に掲示することもあります．LMSの巡回と，大学アカウントのGmail確認とは，毎日のようにしてください．授業の資料類はLMSに掲示するので学内アクセスポイント等を用いて各自アクセスし、予復習を行なってください．
全回出席が望ましいですが、欠席が3分の1を超えた場合は単位認定はできなくなります．出席が3分の2に満たないような場合は，やむを得ない特別な事情を証する書類のコピーとともに欠席届を提出してみてください．
講義・授業への遅刻はやむを得ない特別な事情がない限り禁止です．

異文化ゼミナールは必修や必履修の科目ではありません。

課題に対するフィードバックの方法

諸々の課題などとその進捗状況とについて、LMSも通じて、必要に応じたコメントを伝えフィードバックする予定です．

テキスト

特になし
但し 新書版 1冊 \1,000程度 を購入してもらうことになりますが，ゼミナール開始後に指示します．

参考書

R1 『英語再習法』（共同文化社）￥650+税 （「異文化と言語Ｂ」と同じ）
R2 『世界言語百科』　R3 『言語世界地図』　R4 『世界紛争地図』
R5 『英語の歴史』　R6 『新版 大学生のためのレポート・論文術』
R7 英語辞典（電子辞書も推奨）
R8 ［配布・提示資料，ウェブ上の資料］
R2からR6は本学図書館開架所蔵，他にも適宜紹介．

更新日付

2026/02/25 03:28